

区役が趣味の がまだしもん



園山さんの自宅入り口につくられた石の築山



自宅近くの敷地に石のオブジェをつくっています



気さくに話を聞かせてくれた
園山清一さん



園山さんが所有する敷地に廃棄石が運ばれています



堂園地区の釈迦堂。周りを石で囲んであります

堂園で区役の時にいつも大活躍する人が、園山清一さん(75)です。地区的水田をイノシシの被害から守つたり、ちょっととした地区の工事もお得意だという園山さん。工事関係の仕事かと思いきや、長年農業を営んでいるとのこと。高台の広大な土地で、野菜やサツマイモなどを栽培しているそうです。

角刈りの白髪がよく似合う園山さ

れたり、公民館の釈迦堂の周りに飾られた石も園山さんによるものです。「自宅近くにある敷地に、業者さんが廃棄石を運んでくれるとです。石が廃棄石を運んでくれるとです。石好きの私にすれば、ありがたいことです」と園山さん。パワーショベルを操縦しながら、集められた石をいろ

んな、「広報ましきが訪ねて来るてだつたけん、朝かる散髪に行つてきたたい。ちーとばかる垢抜けたと思うばつてんな、ハハハ」とおちやめに笑います。園山さんの趣味が、工事現場などの廃棄石を使って作るオブジェ。自宅玄関の入り口にオブジェをしつらえたり、公民館の釈迦堂の周りに飾られた石も園山さんによるものです。

「自宅近くにある敷地に、業者さんが廃棄石を運んでくれるとです。石好きの私にすれば、ありがたいことです」と園山さん。パワーショベルを操作しながら、集められた石をいろ

んな形の並びにしつらえていく時間は楽しいそうです。

「畠の仕事が少ない夏場に時間を作つてやります。暑かるて? なーん、パワーショベルにやクーラーのついたけん快適ですばい」と園山さんは豪快に笑います。

仕事で汗を流した後の、毎日の晩しゃくが楽しみだという園山さん。口下手だけど、心根の優しい園山さんとのひととき、心がほどけていくようでした。

鎮魂の場所で 手を合わせて

堂園地区にある辻ヶ峰公園。頂上には

は昭和24(1949)年に八代市日奈久沖で遭難し亡くなつた、津森小の修学旅行生の慰靈塔が立つています。

戦後、修学旅行が復活した2年目のことでした。遊覧船に乗ることを楽しみにしていた児童らは、突風を受けて転覆した遊覧船の犠牲になりました。約65人のうち22人の児童と、懸命の救助にあつた教職員1人と校医1人が亡くなりました。

遺族たちは事故の翌年に慰靈塔を建立し、毎年、慰靈式を営んできたそうですが、熊本地震で慰靈塔が全壊。2018年に民間の支援を受けて再建されています。

慰靈塔が立つ場所から、津森地域の丘陵の山が見えます。古里の風景に包まれた鎮魂の場所で、亡くなつた尊い命に深く手を合わせました。



辻ヶ峰公園の頂上に立っている慰靈塔